

古道を訪ねて ②8



巡礼道 (勝尾寺・中山寺) ⑩

池田文庫前を通り過ぎるとすぐに、巡礼街道は能勢街道と合流します。落語の「池田の猪買」でもお馴染みの能勢街道は、大坂と能勢を結ぶ、約33kmに渡る古道で、江戸・明治時代には、能勢妙見への参拝客で賑わったほか、能勢・池田から物資を大坂へ運ぶ交通の要路で、多くの牛馬が通ったことから別名「馬街道」とも呼ばれていました。

能勢街道と合流して西に向かい商店街の間を進んでいきます。この付近は阪神淡路大震災以後、昔の風情を残した商家がずいぶんと減りましたが、今でも所々に往時の面影を伝える建物が幾つか残されています。街道からは少し外れますが、天守を復元した池田城跡、清酒「呉春」の酒蔵、豊臣秀頼が再建した杜殿がある

る延喜式内社「伊呼太神社」などもあり、池田の町の歴史の深さを感じることが出来ます。街道は商店街を抜ける少し手前で右に曲がり、突き当たりの「西光寺」の山門前で左折します。寺の前には一本の道標があります。正面に「右能勢街道」左面に「左篠山街道」の文字が刻まれたこの道標は、本来は能勢街道と巡礼街道との分岐点にあったものを移動させたものと考えられます。



▶道標

さらに西に進み、国道173号を渡り100mほど進んだ道の分岐点にも道標があります。丸みを持った自然石の右側に「妙見」左側に「ぐく中山」の文字が刻まれています。摩滅しているため一部の文字が判読出来ませんが、本来は「右妙見」

「すぐ中山」とあったことが推測されます。妙見参りの人はここで右へ曲がり、巡礼は直進し、文化14(1814)年に架けられた「巡礼橋・現呉服橋」を渡って「猪名川」を越え、中山寺へ向かいました。

巡礼道(勝尾寺・中山寺)は今回で終了します。この先を歩きたいと考えられておられるかたは、郷土資料館へ問い合わせてください。

